



# 日野学園だより

30

品川区立小中一貫校 日野学園  
校長 青木 経  
ホームページアドレス

平成20年11月1日

<http://www1.cts.ne.jp/~hinogaku/>

## 空をあゆむ朗々と月ひとり (荻原井泉水)

校長 青木 経

本年度の文化祭は新しい試みで実施しました。10月27日(月)からの展示発表では6階のランチルームと4階の展示スペースに1年生から9年生の作品を一斉に展示しましたので、本校の学習活動がご理解いただけたと思います。また、1~4年ブロックは学習成果発表会としてタイムテーブル形式による学年単位の取り組みを見ていただきました。5~9年ブロックは同時進行で合唱コンクール・舞台発表を体育館で実施しました。2つのブロックに分けた初めての試みは、本校の児童・生徒たちの一人一人の活動を最優先させた形式です。一貫校としての特色を生かすためにも皆様方からのご意見・ご感想をお待ちしております。



6階の展示コーナー

さて、新しい学習指導要領は小学校は平成23年度から、中学校は平成24年度から実施されますが、それに先立ち来年度から移行措置として教科によっては授業時数が増加いたします。品川区ではすでに国の示す基準である指導時数を上回る時数を確保しているために品川区一貫要領の大幅な改訂はありません。しかしながら、移行期間において前倒しで実施が可能なものを指導するために、さらなる指導時間の確保に必要な教育課程を現在検討しております。



初日のオープニングセレモニー

新しい学習指導要領が目指すところは、「確かな学力を基盤とした生きる力の育成」であり、重点項目の一つに「理数教育の充実」が上げられます。今回の改訂では、内容・授業時数ともに増やし「知識・技能の定着のための繰り返し学習」や「思考力や表現力等の育成のための観察・実験、レポートの作成や論述」に充てることとなります。

本校では朝の根っここの時間やステップアップ学習によって繰り返し学習を行い、知識・技能の定着を図ってきました。また、数学や理科の先生の加配を受けることによって学習形態を工夫し思考力や表現力の育成にあたってきました。算数・数学、理科の授業に限らず「確かな学力の保障をどのように実質化するか」は学校教育において今後の大きな課題となりますが、すでに本校では幾つかの試みをしています。その一つに、先生方が教師としての資質を磨くために一人の教員が必ず1回は授業を行う教科別の校内授業研究があります。各教科別に主題を設定して講師の先生方の指導を受けながら、一貫校として9年間を見通した授業改善に努めています。

今年は暗い話題が多いなかでノーベル物理学賞に3人の日本人が、そしてノーベル化学賞に下村脩氏が受賞しました。理数科を苦手とする子どもたちが多く指摘されるなかで、物理学賞を受賞した益川俊英氏は「東北のある湾でカキを養殖していたが、あるときから生産性が落ちてきた。調べてみると湾に流れ込む川の上流で開発が進み、栄養が流れ込まなくなってきたという。科学も同じで、上流(基礎研究)から栄養が流れ込まなくなると大変なことになる」と新聞のインタビューに答えています。

今月号では、「教科別部会の取り組みと実践」が紹介されています。各教科の学習状況をご理解いただけたらと思いますが、来年度も子どもたちの将来の栄養源となる学力を重視して取り組む所存です。化学賞の下村脩氏は「人間は若い時、一つは面白いことに当たる。それをやり遂げることが大事。困難があっても乗り越えていかないと成就しない。」と述べています。誰もが本校で授業を通して面白いことに出会え、困難に立ち向かう強い意志を育成できる環境づくりに努めていきたいと思っております。

「ごままでしょうか」

金子 みずず

「遊ぼう」っていうと

「遊ぼう」っていうと

「ばか」っていうと

「ばか」っていうと

「もう遊ばない」っていうと

「遊ばない」っていうと

そうして、あとで

さみしくなって、

「ごめんね」っていうと

「ごめんね」っていうと

ごままでしょうか、

いいえ、だれでも。

温かい言葉をかけられると、誰でもうれしくなります。そして温かい言葉を返したくなります。言葉は不思議な力をもっています。

先日の事です。3年生の国語、「わすれられないおくりもの」を教材にした学習「ありがとうパーティを開こう」に招待され参加しました。主人公のアナグマさんに物語の登場人物になって「ありがとう」の気持ちを伝えるパーティです。わたしはそのアナグマさん役でした。そこで登場人物になりきった子どもたちにたくさんのたくさんの「ありがとう」の言葉をもらいました。子どもたちの温かい言葉のシャワーを浴びながら、自分なりの言葉と伝え方で一生懸命に、しかもとてもうれしそうに活動している子どもたち一人一人に、心の中でたくさんの「ありがとう」と拍手を返しました。

登場人物に扮した子どもたちとアナグマさん役のわたしのこの体験は、いわば疑似体験です。でもその時感じたうれしい、心地よい気持ちは本物です。子どもたちはこの学習を通して、登場人物の気持ちや人物像を読み取ることと同時に「温かい言葉」に触れ心地よい体験をたくさん積んだと思います。子ども同士の関係は大人社会を反映しているといわれます。大人自ら自分の使っている言葉を振り返り、「温かい言葉のこだま」を子どもたちにたくさん返していきたいものです。

## 学力の向上と学習のしつけ

1～4年ブロック長 橋本 真弓

確かな学力の定着と向上を目指し、1～4年では、国語科と算数科を中心に習熟度別や課題別などで少人数指導を行っています。学校公開などでご覧になった方もいらっしゃると思いますが、例えば算数では、学習内容に合わせてレディネステストをし、学年3学級のところを習熟度別4学級に分割して学習するなどしています。我が子は、どのクラスにいるのかなといくつかの教室を見て回られた方もあったのではないのでしょうか。クラス分けには、既習内容の定着度の他、本人の希望も加味されています。子どもたちは、「もっとたくさん勉強したい」「ゆっくり練習をしたい」など、理由は様々ですが、自分に合ったコースをだんだんと選べるようになってきました。指導者もコースに合った指導方法などを工夫して取り組んでいます。

学力の向上とともに、重要視しているのが学習習慣です。本校には、「学習のきまり」があります。発表の仕方についてみると学年段階に応じて、「みんなの方を向いて話をする」「聞いている人の顔を見ながら話す」「黒板や掲示物を使って発表する場合は、相手にそれが見えるよう横に立ち、どこについて話をしているか示す」とあります。これに基づき、普段の学習を通して身につけてきたこのような発表の仕方も学力の向上につながっています。

今年の文化祭で1～4年は「学習発表会」を行いました。参観された皆様から温かいお言葉をいただき、子どもたちも達成感を味わっています。12月は計算コンクール、1月は漢字コンクールと目標をもって取り組む機会があります。全てが日々の積み重ね - 学力の向上と学習習慣の定着を目指し、教員も一生懸命に取り組んでいきます。



研究主題『学力の定着と向上のために9年間を見通した教科指導の工夫～授業力向上を目指して～』に沿って、各教科部会が副主題を設定し、授業研究を中心にこれまで取り組んできました。のべ18回の研究授業を行い、講師の先生方からも指導を受けながら、授業のあり方について研鑽してきました。

各教科部会の取り組みと実践は以下の通りです。



算数・数学科「基礎基本の確実な定着と数学的な考え方を伸ばす授業の工夫」

基本的な事柄の習得や計算などの数学の基礎学力を付けるために、各学年とも基礎プリント等を活用しながら定着をはかっています。また、低学年では体験的な活動を通し、自分の考えを発表し、5～9年では少人数、TTなどさまざまな授業の形態をとりながら、各学年取り組んでいます。

市民科「Step1 Step5 をふまえた市民科の実践」

市民科は、ステップ1（課題発見・把握）、ステップ2（正しい知識・認識/価値/道徳的心情）、ステップ3（スキルトレーニング/体験活動）、ステップ4（日常実践/活用）、ステップ5（まとめ/評価）という授業の流れを大切にし、児童生徒がねらいを達成するための指導計画を工夫して実践しています。

国語科「論理的思考力を育てる学習指導の工夫」

書くことを通して、論理的思考力を身に付ける実践を行っています。誰に、何を伝えるのかを意識して文章を書くには、どのような手立てがあるのか。また、1年生から9年生まで、書く学習における実践を系統立てて、どの学年でどのような力をつけておくべきなのかを考えていきます。

理科「粒子概念を育てる指導の工夫」

新しい学習指導要領では9年生の卒業までに、粒子の存在やその熱運動、分子・原子、さらにイオンや陽子・中性子・電子等を学習します。

そこで、学習の場面を段階的にとらえて、身の回りにあるものを物質として観察したり（3・4年）、水に溶けても重さが変わらなかったり（5年）、空気にも重さがあったり（6年）等、物質が保存されたり結びついたりする実験を授業に取り入れ、実践していきます。

保健体育科「基礎体力及び基礎的運動能力の確立」

実際の動きとイメージした動きとでは差があり、思い通りに身体を動かせない。これらの最近の傾向に対して、様々なからだの動かし方を経験することで、伸び伸びと思いに動かせるからだづくりを目指しています。また、授業中の運動量にも留意し、体力の向上に努めています。高学年では、これらの内容を自分たちで選択し、実践できる授業展開をしています。

社会科「地図を読み取る力を高める工夫」

社会科では、各学年での地図を読みとる力を系統的に高めていることを念頭に、研究授業や研究協議を重ねてきました。3年生の品川区、4年の東京都、5年の都道府県、6年の地球儀や世界地図と視野を広げていき、7～9年では、より深く地図を読み取っていく能力を高めていきます。

英語科「コミュニケーション能力向上を目指した授業の工夫」

前期では、6年、7年、9年生での研究授業をしました。

英語を「聞く・話す」を中心に考え、授業に取り組んでいます。

特に6年生では、英語劇を1年生に披露することを通し、英語のコミュニケーション能力の向上を図ろうとしています。

音楽科「日本の伝統音楽や地域の音楽に対する理解を深めさせる指導の充実」

日本の音楽については、琴の実技指導など2学期後半から3学期に重点的に取り組んでいきます。伝統的な音楽に触れる、楽しむ段階を経て、その良さを理解し、言葉や演奏などで他者に伝えていける能力を身につけさせることを目指しています。

技術・家庭科「基礎基本の定着を目指して」

基礎・基本の確実な定着のために指導内容を精選し、5年間を通した指導内容とし、実践的・体験的な学習活動をさらに工夫して、よりいっそう知識や技能の定着を図っています。また、衣生活や食生活の技能のために、技能を繰り返すように、題材の配列を工夫した年間指導計画を作成する。

図工・美術「基礎基本の定着を目指して」

小学校のよさ(自由な発想と素材のよさを生かした造形)と中学校のよさ(技能・発想等の向上を目指す表現)を生かしつつ、9年間を見通したカリキュラムの中、感性や表現力を高められるように取り組んでいます。1学期は、基礎的な表現技能を目指しながら表現することの楽しさを感じられるように「スケッチの楽しみ」の授業を5年生において行いました。

特別支援「社会参加・自立を目指した指導の工夫」

特別支援では、「自立し社会参加するために必要な知識や技能、態度などを身に付けること」を中心に考え、授業に取り組んでいます。

特別支援では今後、「作業」「保健」「体育」の研究授業を予定しています。

各教科部会には、小中学校の教員が必ず所属しています。授業案を検討し合う中で、指導観・指導方法の違いに気付き、従来行ってきたそれぞれの授業を見直す場となっています。そして、9年間でどのような力を児童生徒に身に付けさせていくのかを話し合い、実践しているのです。今年度から新しく始まった研究システムですが、児童生徒の確実な力となり具体的な変容が見られる中身のある研究にしていきたいと考えています。



## 11月行事予定

| 月                | 火                       | 水                       | 木                                      | 金                                  | 土             | 日                |
|------------------|-------------------------|-------------------------|--|------------------------------------|---------------|------------------|
|                  |                         |                         |  |                                    | 1<br>文化祭      | 2                |
| 3<br>文化の日        | 4 B週<br>水泳指導(1)<br>安全指導 | 5                       | 6<br>連合音楽会<br>(4年・吹奏楽)<br>歯科(1~3)      | 7<br>振替休業日<br>中英語発表会               | 8<br>地域<br>清掃 | 9                |
| 10 A週<br>進路相談(9) | 11<br>水泳指導(3)           | 12<br>金曜日時程<br>東京寺子屋(7) | 13<br>小中理科発表会<br>歯科(4~6)               | 14 水泳指導(4)<br>校外学習(6組)<br>PTA運営委員会 | 15<br>数検      | 16<br>校庭<br>開放   |
| 17 B週            | 18<br>水泳指導(1)           | 19                      | 20 金曜日時程<br>期末考査7~9<br>小英語発表会<br>就学時健診 | 21<br>期末考査5~9<br>水泳指導(2)           | 22            | 23<br>勤労感<br>謝の日 |
| 24<br>振替休日       | 25 A週<br>期末考査5~9        | 26<br>校内研究授業            | 27                                     | 28<br>避難訓練<br>四校合同研究会              | 29            | 30               |

うかでかし様料中し-にまいそ改を-るす振形間調は行(はては化本れ日旨す平化日最日ののる日つにま十の編  
うけいらた々をにて晴なるうつれめ指を(ハ舞成がべ、さ憲半いうを国た日本日  
ていせす催料こ名の確のにでえとも多(イといて長て文化れ法年。と視法で憲日国  
来るつるしにの博異がはつうみ多(イといて長て文化れ法年。と視法で憲日国  
たなか所物し日博異がはつうみ多(イといて長て文化れ法年。と視法で憲日国  
い所くもをたに物日博異がはつうみ多(イといて長て文化れ法年。と視法で憲日国  
となあ開り入館-館のとい天し腹と)ハ舞成がべ、さ憲半いうを国た日本日  
思出の催-館のとい天し腹と)ハ舞成がべ、さ憲半いうを国た日本日

